

# 説教「一つとなる共同体」

(エゼキエル書37章24-28 節 マタイによる福音書18章18-20節)

2021年9月5日 主日礼拝

日本基督教団仙川教会

大串 肇 牧師

**8:18 はっきり言うておく。あなたがたが地上でつなぐことは、天上でもつなぐれ、あなたがたが地上で解くことは、天上でも解かれる。**

わたしたち一人ひとりには信仰によって神につながっています。それは目には見えない形です。しかし目に見える形でわたしたちはつながっています。それが教会です。地上の教会に委ねられていることは、「つなぐこと」と「解くこと」です。しかし、教会にとりましてはつなぐ方が、解くことよりも責任が重いのです。「小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない」とイエスが言われた通り、わたしたち教会の兄弟姉妹一人ひとりに主は語りかけてくださいます。

罪と死とサタンの攻撃の前に、神は立ちほだかってくださっているのです。ですからわたしたちはともに祈り、「神はわが櫓、わが砦」と告白することが出来るのです。ところが、教会と云えども人間の集団であることに変わりません。失敗もすれば間違いもする。あるいは人間的な思いが入り込んでしまいます。

ある時、弟子たちがイエスにこう尋ねました。「いったいだれが、天の国でいちばん偉いのでしょうか」と。(マタイ18章1節)「だれが、いちばん偉いのか」。これは弟子たちにとってもデリケートな問いです。またユダヤ人に限ったことではありません。他者と比べて、自分はいちばん偉いとまでは考えていなくても、出来るだけ少しでも上でありたいと思うのは、人間皆同じです。かつて『ナンバーワンになれなくてもいい、「オンリーワン」でいい』という、人気グループの歌がありました。ずいぶん小さな子供たちも、小学校の先生も涙を流して卒業式などで歌ったものでした。しかし、あの歌で慰められることはあっても、決して満足することは出来ないのではないのでしょうか。それどころか、ほんとうはやはり、ナンバーワンだろうが、オンリーワンだろうが、カッコがいい方がいい。できることも多いほうがいい。負け組みよりも、勝ち組の方がいい。小さな者よりも大きな方がいい。弟子たちだって、同じです。

イエスがもたらそうとする天の国においても、そのような人間の格差や序列があるのだろうか。自分は偉くなるだろうか。そこでイエスは弟子たちにこう述べたのです。「心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない」と(3-4節)。「心を入れ替え」とは、反省するという意味ではなく、

生き方を根本的に転換することを意味します。今まで進んでいた向きを、180度転換して進む、そういう意味です。また、「子供のようになる」とはどういう意味でしょうか。子供になるというのは無責任な者になるのではありません。しかし、わたしたちは神の目の前には誰一人誇れない、子供のように、小さい者、弱い者として、自覚する必要があるのです。

だからこそ、たとえ、99匹を野に残しても、暗い谷底に迷い込んだ、一匹の小羊を探し求めようとしてくださるのです（12-13節参照）。この神の愛に全幅の信頼を委ねることが信仰ではないでしょうか。

また、この神の愛をわたしたちも自分の生活の中に広げてまいりたいのです。ではいったいどうしたらできるのでしょうか。それが祈りなのです。祈りでわたしたちがつながっていることなのです。

**また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心をつにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。（マタイ18:19-20）**

一人で祈っていてもすぐに問題や課題が解決しないかもしれません。しかしながらわたしたちが心をつにして求めるならば、神はその求めを聞き届けてくださいます。祈りは決して無駄ではありません。それだけではありません。この祈りの群れに、イエスキリストはいつも寄り添い、その只中にいてくださるのです。そういう大きな約束が与えられているのです。ご一緒に祈りましょう。